

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170101117		
法人名	株式会社 二幸		
事業所名	グループホーム ひまわりⅡ		
所在地	北海道札幌市中央区南29条西10丁目7番1号		
自己評価作成日	平成24年7月26日	評価結果市町村受理日	平成24年10月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;ligvovyoCd=0170101117-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;ligvovyoCd=0170101117-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々に一つの家族のように、居心地良い暖かいケアをするよう心掛けています。また日常的に散歩や買い物など外出しています。毎日スタッフがメニューを決め手作りの料理を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所設立者の「利用者の尊厳を守り、利用者本位のケアサービスを行う」という意志を職員は良く理解し、利用者の気持ちに添った支援をしている。利用者は家庭的な雰囲気の中で生き生きと明るい表情で職員と談笑しながら過ごしている。静かな住宅街だが喫茶店や商店・食堂などが近くにあり、環境にめぐまれていて馴染みの喫茶店に行くなど外出する機会も多く生活の活性化につながっている。毎日の生活記録は日常生活動作を詳しく把握できるように工夫して作成している。個人のできることを把握して、意欲を高めることを基本に個別支援をしている。協力病院との連携がよく、医療関係者と常に情報交換しながら健康面の支援をしている。また献立のカロリー計算ができるなど職員の学習意欲も高く、外部研修のほか内部研修にも力を入れている。近隣の人は利用者が一人で外出した場合には連絡してくれるなど、地域との協力的体制もとられている。代表者や総務担当者も利用者と一緒にコミュニケーションを図るなど、全職員が一丸となってアットホームを目指した支援をしている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ひまわりⅡ独自の理念を作り、玄関に掲げている。また理念カードを携帯し実践するよう努めている。	法人理念を基に施設独自の理念を作成している。理念明記のカードを作成して常に携帯し、業務の中で理念を確認し理念に基づいたケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ごみ捨ての時よく入居者の方にも手伝って頂くが、近所の方と会い気軽に挨拶して顔馴染みになっている。また無断外出した時にも「ラーメン屋の方に行ったから」と教えて下さったりと地域の一員として交流している。	町内会の役員をされており、地域の人から介護の質問を受けることもある。お花や誕生日ケーキの寄贈があり、非常時には避難場所としてお店の解放の申し出を受けたり、利用者が事故に合わないよう気配りしてくれるなど日常的に良い交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例えば近所の方が「ここはどのような人が入れるの？」等と聞かれ理解してもらえる様説明をしたり、見学の家族の方が認知症やグループホームのことについて聞かれて説明をしたりと地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回運営推進会議を開催し会議の中でホームでの活動状況や外部評価結果、避難訓練の中の反省点など話し合っ運営に活かしている。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催されている。地域包括支援センター職員、民生委員、利用者などが出席して施設の活動状況報告、行事予定報告、無断外出傾向者の事故防止などについて意見交換して運営に活かされている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護を受けている利用者が多いため、市の生活保護担当者や連携を図ったり、市の主催する会議に出席したりと情報交換や協力関係を築くよう努めている。	市の介護保険課や保護課との連携を密に行い良好な関係となっている。研修会にも積極的に出席してグループホーム間の交流を深めケアサービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとしセンサー対応も必要最低限にしている。身体拘束をしない対応できるようにと職員で話し合い統一してケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する外部研修に出席した職員は施設内会議で報告して、身体拘束をしないケアを理解し共有している。日中は施錠せず見守り支援に努め近隣との協力体制もできている。言葉の拘束マニュアルも作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行なわれていない。また虐待についての研修会に参加したりと、事業所内でも今後も見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は協力医療機関のソーシャルワーカーや、区役所の方行政書士の方などから話を聞き、必要な人には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約を結ぶ時、また見学の時でも利用者や家族とよく話し合い、不安や疑問点などに十分な説明を行い理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、苦情お問い合わせポスターを貼り家族などが意見要望を表せる機会を設けている。また利用者にも1対1で話を聞く。また機会を儲け職員全員で共有し運営に反映させている。	家族が遠方の人や高齢などで面会者が限られているため、「ひまわり通信」を活用して生活状況を具体的に書き報告して意見を聞くようしている。来訪時には家族が気軽に話ができるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案が出た場合、会議での話し合いや個別での話し合いなどの場を設けてサービス向上に反映させている。	代表者や総務担当者はケアの現場に入り共働コミュニケーションを図るよう努めている。職員会議で意見交換ができる体制もできている。OJTを活用して自己評価、他者評価を取り入れ、サービスの向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は会社として交付金の支給など職員がやりがいを持って働けるよう環境や条件を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社として知識などをレベルアップしてもらうため研修などを受ける機会を確保し呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議やスタッフ研修など同業者との交流する機会では積極的に情報交換をしてサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の時などに家族とよく話し合い不安な事や要望などを聞き説明し納得して頂いたうえで契約している。その中で本人や家族に安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の時などに家族の不安なことや要望などに耳を傾けながら納得して頂いたうえで契約している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「それなら、こうした方がいいと思いますよ」とグループホームだけではなく本人必要としている支援を見極め、その人に合ったサービスを勧めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員に対して伝えている事は、入居者中心で出来ない事を職員がサポートするという事なので、その中で馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は遠方の方が多いが面会時やひまわり便り、電話での対応で本人の様子を伝え一緒に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室に行く。家族や知人の訪問を受けるなど馴染みの人や場所とのつながりが途切れないようにしている。	遠方の家族来訪時には外食への送迎をはじめ、墓参りなどへも送迎しており、馴染みの人馴染みの場との接点継続の支援を行っている。近隣の喫茶店や美容室への同行支援、手紙を書くときの協力など関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルにならないようまた孤立しないで良い関係になるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今でも時々以前入居していた方の家族から相談されますしその中で少しでもアドバイスできるよう支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々本人のペースを尊重した生活支援をするように努めているし困難な場合も本人が納得できるような支援をするよう努めている。	職員は常に利用者に寄り添い表情、声のトーン、行動から気持ちを汲み取り把握に努め利用者本位のケアサービスに努めている。利用者は明るく温かい雰囲気の中で過ごしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族やご本人からのアセスメントをしっかり行いこれまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室にこもりがちな入居者に対して散歩などの声かけをして外に出るように努めたりと、その人によって一日の過ごし方を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望をふまえて、介護支援専門員と職員が話し合いそれぞれの意見やアイデアを反映し家族にも納得して頂いたうえで介護計画を立てている。	全員参加の会議で3か月を目途にプランの実践状況を話し合いモニタリングをして作成している。毎日の実施状況も記録してプランに反映している。家族、本人の意向も聞き同意を得て作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノート、日々の申し送りなどで情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し、何を求めているのかを理解しホームで対応できない事でも分かる範囲でアドバイスするなど柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や地域の方々理解して頂きながら、生活を楽しむ事ができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護による健康管理と月に1度の協力医療機関を受診して適切な医療を受けられるよう支援している。	月1回協力病院の医師による定期往診、週1回は看護師が訪問され健康管理をしている。協力病院で受診するときもあり、医療機関との協力体制は充実している。他科受診時は通院支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の方に週に1度来て頂き、協力医療機関の看護師の方が病院側の配慮で来られ利用者が自分の言葉で体調や要望をお話できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療ができるよう医師や看護師、ソーシャルワーカーとまめに連絡を取り合い情報交換、相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の対応について説明している。また入居者が状況が変化したらその都度相談しその後の方針などを決めている。	現在までは看取りの経験は無いが希望があれば協力医と連携して支援できる体制となっている。入居時に終末期や重度化に関して家族に説明し、同意書を取り交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応の訓練を消防の方より受け実践を身につけるよう努力している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定した避難訓練を定期的に行い、運営推進会議において地域との協力体制を話し合い、協力体制も出来ている。	災害時訓練は昼夜想定訓練を年2回消防署員立ち合いのもと実施している。運営推進会議の議題として取り上げ地域との協力体制に努めている。緊急用備品の準備も整っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴などプライバシーを損ねやすいケアではさりげない声かけや気配りをし、一人一人の人格を尊重し対応している。	利用者の気持ちに寄り添うことを大切に考え、声かけなどプライバシーに配慮し気持ちに即した対応をしている。傷つく言葉のマニュアルを作り確認しながら関わっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を行なうにも必ず本人の意思を確認したり日頃より希望を聞き、自分のしたい事できる事を自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、その人がその人らしくいられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の染髪や衣服の好み、マニキュアをつけたりとその人らしいおしゃれができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、盛り付け後片付けなど利用者全員が積極的に行なっている。またメニューも色々工夫しながら考えて、食べる楽しみを感じられるよう支援している。	食事一連の作業を利用者のできる力を活かしながら行い、食事が楽しい時となっている。職員はカロリー計算を学び栄養バランスを考え提供している。献立を知人の栄養士に見せコメントして貰うこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算表を毎日つけており、それによりバランスのよい食事を摂取している。その人によって水分量もチェックしており一人一人の状態や力に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の口腔ケアを一部介助、見守り、声かけで行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を基本とし時間を見ながら声かけしている。また紙パンツは便がゆるい時などで使用するも、なるべく自立するよう支援を行なっている。	自立支援を基本としており、個別の排泄パターンを把握してトイレ誘導への声かけ支援をしている。羞恥心とプライバシーに細心の配慮をして排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便のリズムを見極めその人に合わせた対応を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが入居者全員が満足して頂けるようまた順番が公平になるようにするなど配慮しながら支援をしている。	週2回を基本としているが、シャワー浴を取り入れるなど臨機応変に対応している。入浴中の会話を多くするように心がけており、職員との会話が楽しみとなり入浴拒否する人はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣や状況に応じて昼夜逆転しないよう、また良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の使用時についてや、用法用量について理解して服薬の支援と変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの希望に合ったしたい事できる事を役割として楽しんでできる事をして頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人のその日の状況や希望によってドライブ、買い物散歩に出かけたりその中で地域の人と交流できるようにも努めている。	散歩や買い物のほか馴染みの喫茶店、外食、花見、さくらんぼ狩り、ブドウ狩り、札幌祭りなど四季折々出かけられるように計画を立て、楽しい日が多くあり生き生きと過ごせるよう外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望に応じてお金を所持したり一緒に買い物に行きお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話のやりとりや手紙のやりとりも要望に応じて進んで支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースではゆったりくつろげるように努め、利用者が好きな事を出来るよう工夫をしている。また季節の食べ物なども出すようにして季節感を感じて頂いている。	共用フロアには食卓テーブルやソファが配置され、好きな場所で寛ぎ職員と談笑されている。壁には「ちぎり絵」「貼り絵」など利用者の作品が飾られていて、心が和む温かいフロアとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファを様々な所に配置しそれぞれが居心地よい場所を見つけ思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にある物は本人の好みの物や家具などを置き、服なども一緒に買いに行ったりと少しでも居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には馴染みの調度品、テレビなどが自由に持ち込まれ安心して過ごせる場所となっている。壁には、家族の写真、作品など自由に飾られていてその人らしい個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人ができる事わかる事をひきだしその人がその人らしく自立した生活が送れるよう日々努力している。		